

を行うことの可否について、(2)共同課題の限定や報告者の決定の過程で委員会がどの程度まで準備をすすめるべきか、(3)研究会と大会との関係をどのような形でつけるのがよいか、(4)運営委員会で企画をたてる際にどのような点を考えるべきか、(5)村落社会研究の方法といふことでとりあげるべき問題は何か、その他で、これらについて意見を書いていただくことを主にしました。以下にはこのうち、(4)と(5)についておよせいただいた御意見をぬきがきして御報告することとします。

#### 〔運営委員会での企画のたて方について〕

○あくまでも現段階の問題状況のなかで、それをいかに従来の方針でこなしうるのかといった所に焦点をあててほしい。現在の思想ときり離して、従来の方針論のみを出しあっても余り意味ありません。(島崎)

○会員のうちに「自分には直接関係がない」とか「こんどは拝聴して勉強させてもらえばいいと思ってきました」という声がきかれることのないようになることは、委員会が充分に企画をたててやつていこうという積極性をもつ場合に特に留意すべき点だと思います。企画がそういう人びとの期待をも予めカバーしているような工夫が何とか立てられないものかと思案しています。(中野)

#### 〔村落社会研究の方法についてとりあげる問題点について〕

貴重な御意見をうかがうことができました。この機会に回答いただいた方に御礼申し上げます。アンケートの内容は(1)自由報告

方法論をしゃべってもらいう段階にきてくるのではなくか」とそのあ

との小池癡翁を中心て展開してゆくのはどうでしようか。村研年報

一から五までのうち三、四の論文をとりあげて、その人びとに方

法論をのべただくことと、これまでの一五集までの論文の方

法論上の特徴を整理していただくことを併用したらどうか。(黒崎)

○現在の「農業危機」といったものを、村落研究の立場からどう問題としうるのか。その方法いかんといった事ではないでしょうか。

(島崎)

○委員の中からだけ意見が余り強調されすぎないことが、会員全體の中から意見が吸上げられるのによいのではないかと思ひます。

(中野)

○1. 文化人類学や民族学、さらに民俗学とのかかわり合

2. 現在的側面と歴史的側面との問題

3. 民俗資料調査における「社会生活」部門と社会学

4. 家連合とか同族とか、そんなことではだめだといふ人にぜひ登場してもらいたい

5. 日本史の立場から村落をやっている人にだれか登場してもらいたい(原)

○たとえば昨年の共同討議のときに問題になつた(1)資本主義社会の村落における(身分)階層と階級の研究の方法、(2)村落構造変化の要因に関する問題についての研究方法——たとえば村落の近代化へのアプローチの方法。(牧野)

○ 1. 村落社会を全体社会ないしは外部社会と関連づけるため

#### の方法について

2. 村落社会の解体・再編成に焦点をおく方法について  
この二つのことは関連していますが、私はこれらを結びつけていってくださいたらと思ひます。(松本)

○大きく問題をだせば、資本主義社会の中での村落の再生産の問題といえましようが、さらに問題を小さくすれば、家の解体→核家族への変化、たしかこの場合、都市家族と決定的に異なるところは、生産と消費生活の結合といふことだと思ひます。しかしそれも一部分離の方向にある。この基礎的变化は、農民層の分化・分解といふ線で問題を提示できるようになります。今一つの問題は、家→家庭の変化とともにそれらを単位とする社会関係の変化、村落共同体的あるいは伝統的社會関係の変化(解体→家族もしくは個人単位の新らしい結合)が問題となるでしょう。この三つの問題点は別に新らしいものではないが、別の角度から問題をクロスしてとりあげられないだろうか。というのは、村落共同体の生活が、小宇宙の中で、生産と生活とが結びついた全人的関係の社会であったとすれば、その解体によって、人間の全人的社會関係がバラバラになり、疎外現象が現われてくる。それは經濟的に、社会的に、文化的に現われると思うが、孤立化してゆくという状況の中で、個別農家はいかにして全人的生活を回復しようとしているか。或はそこにはかかる新結合が農民の知恵として生まれてきているか。そういう問題としてより広い地域社会あるいは地域開発を考えてみる必要がないだろうか。というようなことを考えてします。(余田)